

鈴鹿の風

すずかのかせ

VOL.
36

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院広報誌

令和時代の鈴鹿病院

院長 久留 聡

新任者の紹介
新規採用職員・転入職員紹介
名誉院長の部屋「“平成”と“令和”の間で」
地域医療連携室だより



令和元年度 新規採用看護師



令和時代の鈴鹿病院

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院 院長 く久留 さとし聡



元号が変わって最初の「鈴鹿の風」です。今年度は副院長、看護部長が交代となり、新たな体制で臨むこととなりました。

私が院長に就任して3年目を迎えました。前任の院長が病棟の建て替えやMRI、電子カルテの導入などインフラを整備されたので、後任としては中身の充実を図るのが使命であると考え病院運営をすすめてまいりました。中身というのは診療、教育、研究のことです。診療の面では、まず何よりもマンパワーが必要と考え、医師の定員を充足いたしました。また看護職員も増員し、施設基準7:1を取得することができました。その上で新たにパートナーシップ制という看護体制を導入し、患者サービスの向上に取り組んでいる所です。当院は常に100台以上の人工呼吸器稼働していますが、呼吸管理

のさらなるスキルアップを図るため、昨年は同じ国立病院機構の八雲病院に視察団を派遣し、様々な技術を学んできました。

リハビリテーションにおいては、一昨年よりロボットスーツを新たに導入しました。患者様からは高評価をいただき順調に運用できています。効果には手応えを感じていますが、作用メカニズムはまだ十分に解明されていないので、今後さらに研究を続けていく予定です。

研究の面では、今まで筋ジストロフィーの班会議やスモンに関する調査研究班において中心的な役割を果たしてきましたが、さらに今年度は「神経核内好酸性封入体病」に関する研究がNHOネットワーク共同研究に採択されました。聞きなれない病気ですが、白質脳症の一種で認知症を始めとする

多彩な症状をきたす稀な疾患です。昨年当院に赴任された曽根先生が名古屋大学時代から引き続いて研究をされており、さらなる発展が期待されます。

新たに令和の時代となり医療をめぐる環境も大きく変わろうとしています。遺伝子医療、再生医療、AIやICTなど平成の時代に開発された最新技術がいよいよ臨床現場で応用されることが予想されます。神経難病、筋ジストロフィー、重度心身障害の分野においても、これらの技術を駆使して診療することができるように準備を進めていく必要があります。しかしながら、どんなに技術が進歩しても変わらず大切な事は、一人一人の患者様に寄り添って、信頼の得られる医療を提供することであると考えます。今後ともよろしくお願いいたします。



むら かみ かず よ
村上 和代 看護部長

名古屋医療センターより赴任して参りました。三重県の勤務は二度目になります。三重弁が耳心地良く、鈴鹿病院の温かさを日々感じながら、鈴鹿病院の一員になれた事を嬉しく思います。人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つとの意味が込められた新元号令和が始まります。新たな時代に向かいスタッフと一丸になり鈴鹿病院の看護を育てていきたいと思ひます。皆様のご指導ご協力を宜しくお願ひいたします。



おほ あいら ま き
大始良 真紀 看護師長

三重病院から赴任して参りました。外来に着任いたしました。三重病院では小児科病棟、神経内科病棟、整形外科病棟、呼吸器内科の経験があり、重症心身障がい児(者)や筋ジストロフィーの看護経験はありませんが、患者様との出会いを大切に学んでいきたいと思ひます。ご迷惑をおかけする事も多々あると思ひますが、ご指導のほど、よろしくお願ひ致します。



やま だ ひろ あき
山田 裕昭 栄養管理室長

鈴鹿病院の皆様初めまして、4月1日付けで石川病院より転入して参りました管理栄養士の山田 裕昭と申します。北陸地区からの転入ですが、本籍は愛知県で平成2年に現在では委譲された明和町の明星病院と言う施設で採用されました。以来巡り巡って11施設目となります。今まで回った施設では、急性期、重心、てんかん、精神、ハンセンと様々な診療内容を経験しましたが、筋ジスは初めてで、またこれまでになかった新しい体験ができるだろうと期待半分、不安半分と言ったところですが、どうぞ宜しくお願ひします。



はっ どり かおり
服部 香 細菌血清主任

この度、臨床検査科に転動してまいりました。この病院での勤務は3回目となります。何度来ても気持ちは新たですが、多少のこれまでの経験を活かし、自分に出来る事を精一杯していけたらなと思ひます。元々おちょこちょいな性格なので、少しは落ち着いて仕事ができたらいいと思ひていますが、どうなることでしょうか。趣味は、テニスと園芸です。鈴鹿病院にはいろんな花が咲いていてとても嬉しく、心ウキウキです。

新任者の紹介

introduce our new member



かわ しり ひさ おき
川尻 久興 管理課長

浜松の天竜病院から赴任してきました。鈴鹿病院は初めての勤務で、三重県自体初めての勤務となります。

また、今回は平成と令和を繋ぐ記念の記憶に残る人事異動となり、さらに鈴鹿病院においては新設ポストの管理課長を仰せつかり、いくつもの「初」が重なり、大変重責を感じますが、微力ながら私なりに「鈴鹿の〈良〉風」となれるよう貢献したいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



や ぎ たつ や
八木 達也 経営企画係長

4月から国立長寿医療研究センターより経営企画係長として赴任しました。前施設が国立研究開発法人だったため、国立病院機構での勤務は約6年ぶりとなり、また経営企画に携わるのも今回が初めてとなります。

最初は色々ご迷惑をおかけすることが多々あるかと思ひますが、精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願ひいたします。



なん や たか あき
南谷 崇明 業務班長

この度、業務班長として名古屋医療センターから赴任しました南谷です。以前鈴鹿病院に来たことがありますが、その頃と比べると建物や設備等は新しく綺麗になっており、接する職員の方々の表情や態度から、鈴鹿病院が充実していることを日々実感しています。まだ不慣れな点があり、ご迷惑をおかけすると思ひますが、鈴鹿病院に少しでも貢献できるよう努力しますので、これからよろしくお願ひします。



い とう さだ のぶ
伊藤 定信 調剤主任

この度、豊橋医療センターから赴任し、5年ぶりに家族で地元の三重に戻る事ができました。折しも子供の小学校入学と重なり嬉しい反面慌ただしい日々を過ごしています。豊橋医療センターでは主に治験業務を行っていました。鈴鹿病院では調剤主任の業務に従事し、病院の発展に寄与できるよう頑張ります。みなさまどうぞよろしくお願ひいたします。

つじ かわ こう 陽
辻河 高陽

患者さんとご家族の悩みをよく知り、少しでも多く解決出来るよう努めてまいります。よろしくお願いします。

にし やま ち なつ
西山 千夏

分からないことばかりなので、日々学習し、自分のできることを増やして行けるように努力してまいります。

ひがし で り さ
東出 理沙

患者さんと共に歩んでいきたいです。まだまだ力不足ですが積極的に頑張ります！

いな がき み き
稲垣 美紀

心機一転がんばります。

くに もり せい か
國森 生花

患者さんから信頼を得られるような看護師になりたいです。

もり もと しょう こ
森本 将吾

精神科経験のみで不安が強いですが、一早く戦力になれるようがんばりますのでよろしくお願いします。

やま もと ゆう こ
山本 裕子

不安な気持ちもありますが、笑顔で頑張ります。よろしくお願いします。

なが い あさ き
名川 明希

たくさんご迷惑をおかけすると思いますが、一生懸命頑張ります。よろしくお願いします。

なが い きい 生
長井 希生

初めての仕事に不安が大きかったです。同期の仲間と一緒に一生懸命がんばっていきます。

みなみ ふみ や
南 郁哉

知識や技術、人間性も未熟な私ですが、これから頑張って勉強していきます。宜しくお願い致します。

はま がみ はる な
濱上 晴菜

分からないことだらけですが、一生懸命頑張りますので、よろしくお願いします。

もり もと ゆう か
森本 裕香

鈴鹿病院の一員として働けることを嬉しく感じており、この気持ちを胸に仕事に励んでいきます。

の る じゅ り
野呂 珠里

患者さんの思いに寄り添い、安全・安楽な看護を提供できるよう、笑顔忘れず、日々努力していきます。

とく だ さき き
徳田 紗季

患者さん一人一人と向き合いながら、その時に感じていることを捉え患者さんの立場になりながら気持ちに寄り添える看護師になれるよう精一杯頑張ります。

べつ しょ う さ
別所 海砂

笑顔で頑張ります。

たま がわ ゆう み
玉川 優美

一生懸命頑張っていきます。ご指導よろしくお願いします。

す ぎ さかおる
須崎 薫

患者様の個別性を大切に、心のもったケアができる看護師になれるよう頑張ります。宜しくお願いします。

ひ び の まゆ
日比野 真夕

1年目でまだまだ未熟ですが、患者様に寄り添う病棟看護師として日々成長していきます！

さか た ゆう
阪田 優

療養されている患者様に最善の看護を提供出来るよう日々頑張ります。よろしくお願いします。

はた ゆみ
畠 由美

患者様が毎日笑顔で自分らしく過ごせるように日々ケアしていきたいです。

なか ちひろ
仲 智優

責任感を持って頑張ります。

よこ た み の り
横田 美乃里

全く新しい分野での就業となりますので、至らないところが多々あるかと思いますが、よろしくお願いします。

つじ ゆきこ
辻 有紀子

三重中央医療センターより異動して参りました。患者様とご家族に寄り添い安心できる看護を心がけていきます。

くろ だ いずみ
黒田 伊純

三重中央医療センターより異動で参りました。初めての分野で不安はありますが、よろしくお願いします。

いん だん みほ
位田 美保

名古屋医療センターより異動してまいりました。新しい環境に戸惑うことが多いと思いますが、早く慣れるよう努力していきます。

新規採用職員 転入職員紹介



名誉院長の部屋

名誉院長 小長谷 正明

“平成”と“令和”の間で

“令和”の時代になりました。

菅官房長官が“令和”と揮毫された額を掲げた時、初めて耳にする言葉であり、また、令の字は、法令や命令などと、堅苦しいイメージがあるので、違和感を覚えました。が、万葉の歌人で太宰府の長官だった大伴家持が、梅花の宴で「初春の令月にして、気淑（よ）く風和らぎ、・・・」と表現したのが出典で、この場合の“令”は“物事が艶やかで美しいという意味だ”と知って、得心しました。“令嬢”や“令夫人”、“令名”などと同じ使い方です。爽やかで、平和な良い時代であるように願っています。

同時に、私が生まれて学び育ち、若き日々を過ごした“昭和”は遠い世界になり、社会と家族のために一生懸命になって駆け抜けた“平成”も、昨日の日々になってしまいました。が、社会にも、人にも、科学・医学にも時の流れは続いていきます。

平成最後の4月末、名古屋の国際会議場で日本医学会総会があり、会頭は国立病院機構名古屋医療センター名誉院長の斎藤英彦先生で、私も出席しました。聴講した講演でとりわけ印象深かったのは、本庶佑、山中伸弥、天野浩の三人のノーベル賞を受賞された先生方のもので、“平成”時代の研究が実り、“令和”の医療や社会を豊かにする、橋渡しのような内容でした。

本庶先生は昨年度に、ガンの免疫応答の研究で医学生理学賞を受賞されました。免疫の働きを低下機構を妨げてガンに対する免疫力を高めるといふ、新しい考え方の治療法で、すでに臨床的に効果も上げています。かつて、多くの方が細菌感染症で亡くなっていましたが、ペニシリンに続いて発見された多くの抗生物質により、人類が感染症の脅威から解放されたように、今後

はガン免疫療法が改良され、これによる死を恐れなくてもすむだろうというお話でした。ガンで亡くなった患者さんたちはもちろん、知人や肉親、幼い時に失った母の顔を脳裏に浮かべて感銘しながら聴き入りました。

山中教授は言うまでもなく、iPSの先生です。この再生技術で作られた網膜の細胞を網膜色素変性症の患者さんに移植して成功したことや、パーキンソン病への臨床試験もいよいよだとおっしゃっていました。もっと希望に満ちた話は、難病のALSの患者さんから神経細胞を再生させ、その細胞の死滅を防ぐ薬が出てきたということです。原因不明で治療法がない病気で、細胞の障害過程を試験管の中で再現し、治療法を見つけていくのは画期的なことです。あと10年もしたら、神経難病の治療法は画期的に変わっているでしょう。

天野先生は、青色LEDにつながる窒化ガリウムの基礎研究で2014年度にノーベル物理学賞を受けられました。現在は名古屋大学の研究所で、LEDだけではなく、次世代の様々な電子デバイスへの窒化ガリウムの応用を目指すプロジェクトを組織されているという、まさに明るいお話です。私の若い頃は、日本人のノーベル賞は湯川秀樹博士や朝永振一郎博士の素粒子理論など、素人には理解不能なものばかりでしたが、この御三方のように、身近なことに繋がる研究が受賞するよう

になったのです。

また、これらの先生方のラボの若い研究者は、新しい発見、新しいアイデアで、日々めくるめく思いをしながら没頭しているのだらうと、羨ましくも思いました。

しかし、いいことだけではありません。名古屋大学減災センターの福和伸夫教授のお話では、平成時代は日本列島では大地震が次々と起こっており、南海トラフの巨大地震は避けがたく、最悪で20万人の死者、1410兆円の経済損失との予想です。ほぼ100年ごとに繰り返えし、過去3回の南海トラフ地震の直後に、華やかだった元禄時代と、太平の江戸時代の終焉、太平洋戦争の敗戦と、社会的大変動が起こっています。

新しい令和の時代では、社会のすべての力を結集して、大災害に備え、克服していかなければいけません。難しい病気や、新たな感染症でも同じことが言えます。きちんと事態に対応し、乗り越えて和らいでこそ、後世に、令（よ）い時代だったと評価されるでしょう。



令和元年5月1日の名駅前ナナちゃん

地域医療連携室だより

鈴鹿病院では神経難病の患者さんをはじめ重症心身障がい児（者）の方の長期療養入院やレスパイト入院・短期入所の利用受け入れをおこなっています。

- 最初から長期入院ではなく、当院の入院環境に慣れていただくために、まずはレスパイト（短期入院）のご利用をお勧めします。患者さんが“今後どのように生活したい”のか。患者さん自身（成年後見人）の意思を最も大切にしたいと思います。
- 当院での長期・短期療養入院を希望される方は、まず、かかりつけの先生にご相談ください。当院を利用される前にかかりつけの先生から当院へ診療情報提供書の送付をお願いします。診療情報提供書の内容を確認した上で外来受診日時をご本人・ご家族に連絡いたします。
- 重症心身障がい児（者）の方の長期入院申し込み先は、18歳以上の方はお住まいの「市町の障がい福祉担当課」、18歳未満の方はお住まいの「市町を管轄する児童相談所」となります。まずは当院地域医療連携室へ相談してください。

今後とも鈴鹿病院をよろしく願いいたします。

国立病院機構 鈴鹿病院 地域医療連携室 TEL 059-378-1321 FAX 059-379-6670

NHO 国立病院機構通信
National Hospital Organization PRESS

第10号発行しました



http://www.hosp.go.jp/nho_press.html

「NHO PRESS」で検索

NHO PRESS

検索

鈴鹿病院は、国立病院機構（NHO：National Hospital Organization）という全国141の病院からなる国内最大の病院ネットワークの病院です。国立病院機構（NHO）という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する『NHO PRESS～国立病院機構通信～』を発行しています。地域医療連携室に設置していますので、ぜひご覧になってください。

なお、ホームページに最新号と過去のもを掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。



■ 外来診察担当表 (2019年5月1日現在)

	月	火	水	木	金
脳神経内科	小長谷 木村	酒井	久留 南山	小長谷	久留
内科	野口	落合	安間 (循環器内科)	安間 (循環器内科)	棚橋 (循環器内科)
小児科		予約			予約
整形外科		田中 (装具外来)			田中
リハビリテーション科		田中			田中
皮膚科		予約			
歯科	小泉(午前)	若林(午後)		奥村(午後)	
禁煙外来	野口			安間	

- 外来受付は8:30~11:00、診療開始は9:00~です。
- 歯科は身体障害者の方に限ります。
- 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします(あらかじめ電話予約のうえお越してください)。
- 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約ください。
- スギ花粉症でお悩みの方を対象に舌下免疫療法を実施しています。(月曜日)
- 土曜日、日曜日、祝祭日は休診です。

■ 交通案内

- JR「加佐登」駅より徒歩15分
- 東名阪「鈴鹿」I.C.より車15分
- 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- 鈴鹿市西部地域コミュニティバス
椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ



編集後記

澄み渡る空が気持ちよく過ごしやすい季節になってまいりました。新しい時代「令和」となり、気持ちを新たに日々業務に取り組んでいます。鈴鹿病院でも新しい職員を迎えました。期待と不安でいっぱいだった4月から2か月が経ち、新しい環境に慣れてきている頃でしょうか。フレッシュな職員に負けぬよう、編集委員一同「鈴鹿の風」を盛り上げていきますので今後もよろしくお願いいたします。(給与係 草深 絢香)

独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院

〒513-8501 三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号 Tel 059-378-1321(代) Fax 059-378-7083 <https://suzuka.hosp.go.jp>